

皮膚科研修

◇ 研修目標および特徴

皮膚科疾患を通して患者の全身状態を把握するとともに、その検査法・治療法を理解する。なお、皮膚外科に関心がある場合、形成外科と相談して、その方面の勉強も可能である。

- (1) 発疹を観察し、的確な表現と記載ができるようにする。
- (2) 皮膚科検査法(真菌検査・パッチテストなど)を経験する。
- (3) 基本的な軟膏療法・創処置(消毒・包交)ができるようにする。
- (4) ステロイド外用剤の適応と副作用を理解する。
- (5) 熱傷の初期治療ができるようにする。
- (6) 急性蕁麻疹・アナフィラキシーショックの診断、治療ができるようにする。
- (7) 代表的な皮膚癌(悪性黒色腫・有棘細胞癌・基底細胞癌・乳房外 Paget 病など)を経験する。(手術療法が必要な場合は形成外科に紹介する)
- (8) 膠原病の皮膚症状を経験する。
- (9) 褥瘡の管理と治療ができるようにする。
- (10) 基本的な皮膚外科手技(デブリードマン・皮膚縫合法など)ができるようにする。

◇ 研修内容(方略)

(1) 経験したほうがよい主要疾患

- 湿疹・皮膚炎・・・急性湿疹、慢性湿疹、アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎など
- 蕁麻疹・痒疹・・・急性蕁麻疹、慢性痒疹など
- 紅斑・紅皮症・・・多型滲出性紅斑、結節性紅斑、紅皮症など
- 紫斑・・・単純性紫斑、老人性紫斑、アレルギー性紫斑病など
- 循環障害・・・糖尿病性壊疽など
- 膠原病と類症・・・全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、シェーグレン症候群、CREST 症候群、アレルギー性血管炎、ベーチェット病など
- 肉芽腫・・・サルコイドーシスなど
- 物理化学的皮膚障害・・・熱傷、凍瘡など
- 薬疹・・・薬疹、固定薬疹など
- 水疱症・膿疱症・・・尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡、掌蹠膿疱症など
- 炎症性角化症・・・尋常性乾癬、類乾癬など
- 代謝異常・・・アミロイドーシス、黄色腫症
- 皮膚腫瘍と形成異常・・・老人性疣贅、粉瘤、日光角化症、ボーエン病、有棘細

胞癌、基底細胞癌、悪性黒色腫、菌状息肉症、
乳房外 Paget 病、色素性母斑など

感染症 ……単純ヘルペス、帯状疱疹、伝染性軟属腫、癰、蜂窩織炎
足爪白癬、体部白癬、皮膚カンジダ症など

(2) 研修すべき主な診断・検査法

真菌鏡検、真菌培養、細菌培養、皮膚生検、皮膚病理学、パッチテスト、
光線テスト

(3) 研修すべき治療法

軟膏療法 (ステロイド軟膏、非ステロイド軟膏、抗生剤軟膏、抗真菌剤など)

光線療法 (PUVA 療法)

内服療法 (抗ヒスタミン剤、抗アレルギー剤、抗生剤、抗真菌剤、抗ウイルス剤、
ステロイドなど)

消毒・包交・包帯法 (熱傷処置、創部処置など)

皮膚外科 (皮膚縫合法、デブリードマンなど)

◇ 指導スタッフ

白井 洋彦

◇ 週間スケジュール

曜日	AM	PM
月	皮膚科外来 (1,2 診)	処置係 病理検討 勉強会
火	皮膚科外来 (1,2 診) 病棟業務	パッチテスト、皮膚生検など
水	皮膚科外来 (1,2 診)	皮膚科外来 (1 診) 病棟業務、皮膚生検など
木	皮膚科外来 (1,2 診) 病棟業務	病棟業務
金	皮膚科外来 (1,2 診) 病棟業務	病棟回診 症例カンファレンス

◇ 評価方法

(1) 各研修医は研修到達度の自己評価を PG-EPOC に入力する。

(2) 研修指導医は研修期間終了時に、研修医の研修到達度を評価する